

son et lumiere (仏／音と光) は、フランスで行われてきた歴史的な出来事を照明(映像)で歴史的建造物に投影して行う大規模なインスタレーションのことで、

その壮大な叙事詩のようなイメージが由来となって、この企画室の名称となりました。

もともとは、東京・田園調布にあるスタジオで、少しずつ丁寧におこなわれてきた、

心とからだの感覚を深めていくための(ソマティック・ムーヴメントやダンス、ボディワーク等の)体験、実践的な講座と、自然思想史や、芸術、宗教史などから普遍性について考察を深めていくための座学を組み合わせた講座や、

ダンス公演、インスタレーション(空間芸術)などのプロジェクトを進めていく中で自然とうまれてきた企画室です。

.

芸術作品や、人の存在までもが、市場価値に置き換えられてしまう風潮のなかで、

都内の片隅のしずかなスタジオでは、芸術活動や、ボディワークなどによるこころとからだの探究を通じて、

すべての人の存在と自然、宇宙、それらが美しく響きあっている世界に私たちは置かれているのだと、ささやかに実感できるような空間をつくりたいと日々研鑽を重ねながら、様々なプログラムを企画していきます。

ロダンが晩年の「カテドラル」という作品で「聖堂は、どこか特別なところにあるのではなく、人と人のあいだの共振・共鳴そのものにある」ことを、私たちに伝えているように、

ひとりひとりの裡にある壮大な叙事詩が美しく響きあう空間でありますように。
ご来場を心よりお待ちしております。



“La Cathedral” / A.Rodin (1908)
Photo : sonomi tamashiro (1999)

月例ワークショップ

大森浩幸のファシリテーションによるダンス・ムーブメントと、
整体・ボディワークの講師によるタッチや呼吸、心地よいからだ、
調和したからだへの理解を深めるワークを組み合わせたクラスで
す。

からだの内側や外側の空間に様々なイメージを持つことで、毎回
新鮮な感覚が味わうことができます。

からだや、想像力（意識）の潜在能力がいかに大きなものである
か、心地よく楽しみながら自由な身体の動きを味わってみてくだ
さい。

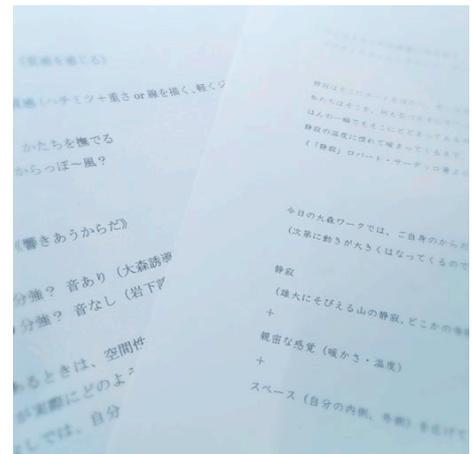
隔週土曜/日曜（詳しくはスケジュールをご確認ください）

講師

大森 浩幸（元・勅使川原三郎+KARASダンサー）

檜山ゆうこ（身がまま整体/(片山洋次郎先生により考案された整体法)）

他、多彩なゲストをお迎えしながら展開します。



毎回新しく作成している資料

公演 / 講演

音と光の活動を通して出会い、人と人が響きあう空間というコンセプトに協力してくださる魅力的な方々と一緒に、作品を作ったり、講演会や公演の企画を行っています。

| 三つの世界 | (ダンス公演)

ひとりひとりの世界が触れ合う よろこび
ひとりひとりの世界がすれ違う かなしさ
それでも、いつも結ばれている 世界

ダンサー /
岩下 徹
大森 浩幸
矢菽 竜太郎

照明オペレーター /
miyo

演出・空間デザイン・音響編集・衣装 /
玉城そのみ

主催 | 企画室・音と光

充実した後、高層階級の音を眺めたいと思いました。
冬の曇りとした空気の中、再びあの懐かしい空間も
皆さまにお届けします

2019.2.16 sat.
17 sun.

三つの世界
2019年 11月 初演

ダンサー /
岩下 徹
大森 浩幸
矢菽 竜太郎

2月16日 (土)
19:45 開演 19時30分開演
2月17日 (日)
16時開演 16時30分開演

構成・演出・空間デザイン・音響編集・衣装 /
玉城 そのみ

照明オペレーター / miyo
音響オペレーター / 玉城 そのみ

チケット 2,500円 / 前売 1,000円

会場 / いざよひ
大阪府吹上区南町 35-6
<http://izayoi.jp/venue.html>

ご予約・お問い合わせ / info@izayoi.jp

写真: 玉城そのみ



Toru iwashita / ph.sonomi tamashiro



Hiroyuki Ohmori / ph.sonomi tamashiro

2019年9月、人類学者・竹倉史人氏による「土偶は何をかたどっているのかー人類学がひらく縄文の神話世界」講演会が東京工業大学にて開催され、土偶の形象には具体的なモチーフがあったという新説が発表されました。今後、考古学との協働により歴史の解釈が変わる可能性を大いに秘めた研究です。

従来の「土偶は女性をデフォルメした像である」という見解から一度離れて、そのひとつひとつの紋様や形象を、丹念なまなざしで見つめ直すことで具体的なモチーフを見出しながら、当時の人々の食文化、生活様式、そして神話や死生観までもを含めて研究をされたそのプロセスのお話しは大変新鮮な驚きを聴衆に与え、研究発表の場であるにも関わらず、場内には感嘆の声が上がりました。

種から芽が出ること、花が咲き実が実ること。その生命（いのち）はどこからやってきてどこへ去って行くのでしょうか？自然と共に生活していた人たちの死生観、そして生命への賛美と祈りー竹倉先生の縄文と土偶のお話しをお楽しみ頂けたら幸いです。そしてこの日、開場から講演開始までの間にはフラワーアーティスト、ガーデンデザイナーの塚田有一さんによる花活けの時間、講演後には竹倉氏とのトークセッションを行います。

素敵な花のある空間で、土偶のお話しと植物をめぐる対話をどうぞお楽しみください。



人類学者 竹倉 史人
フラワーアーティスト 塚田 有一
ボディワーカー 藤本 靖

ダンサー 岩下 徹
ダンサー 大森 浩幸

主催 | 企画室・音と光

